

STOP!

これ以上、墜落・転落災害による被災者を出さないために！

墜落・転落災害を根絶しよう！

－ 多発する墜落・転落災害の根絶に向けた確実な取組 －

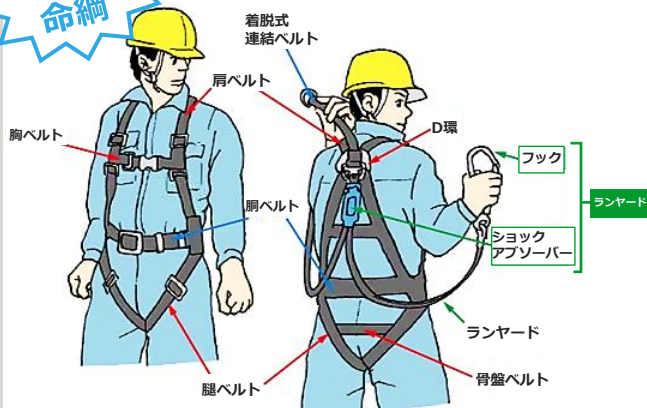
命を守るため、**必ず**墜落制止用器具を使用しましょう！！

「墜落・転落」災害は、墜落防止対策が講じられないことで発生します。高所から墜落すると死亡したり、身体に障害が残る等の重篤な災害になることがあります。

しかし、高所作業は危険を伴う作業であるにも拘わらず、未だに“墜落制止用器具（安全帯）を装着しない”、“装着してもフックを掛けない”、なかには“ヘルメットを被らない”状況もみられます。労働者を高所作業に従事させる事業主の皆様、高所作業に従事する労働者の皆様、労働者を直接指揮監督する職長や作業主任者の皆様、それぞれの立場に応じた責任や職務において確実な墜落防止対策を実行し、高所作業に従事する“働く人”の命を守ってください。

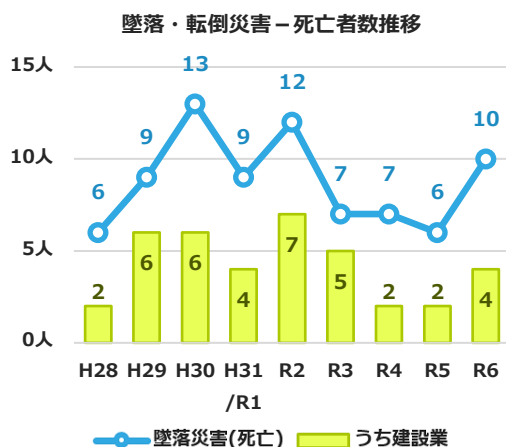
大事な
命綱

フルハーネス型墜落制止用器具



※令和4年(2022年)1月2日以降は、旧構造規格の墜落制止用器具(安全帯)は使用禁止となりました。

「墜落・転落」災害による死亡者数は
“建設業”がもっとも多い！



POINT①

高所作業を行う場合は、

「**墜落制止用器具**」(安全帯)のフック(コネクタ)を必ず、**丈夫な設備に掛けましょう！**



POINT②

「**職長**」、「**作業主任者**」等は、労働者を指揮監督する重要な役割をもつ「**安全のキーマン**」です。墜落制止用器具の使用状況をしっかり確認しましょう！



兵庫労働局ホームページ

https://jsite.mhlw.go.jp/hyogo-roudoukyoku/hourei_seido_tetsuzuki/anzen_eisei/newpage_00002.html

脚立作業時の注意事項



足場からの墜落防止措置が強化されます

1 一側足場の使用範囲が明確化されます

安衛則第561条の2（新設）

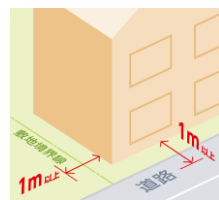
R6.4.1施行

幅が1メートル以上の箇所において足場を使用するときは、原則として本足場を使用することが必要になります。

●「幅が1メートル以上の箇所」に関する留意点

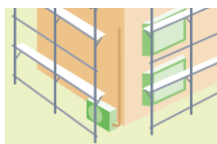
足場設置のため確保した幅が1メートル以上の箇所について、その一部が公道にかかる場合、使用許可が得られない場合、その他当該箇所が注文者、施工業者、工事関係者の管理の範囲外である場合等については含まれません。

なお、足場の使用に当たっては、可能な限り「幅が1メートル以上の箇所」を確保してください。

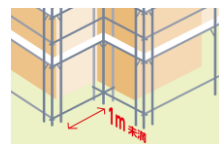


●「障害物の存在その他の足場を使用する場所の状況により本足場を使用することが困難なとき」とは

足場を設ける箇所の全部又は一部に撤去が困難な障害物があり、建地を2本設置することが困難なとき



建築物の外面の形状が複雑で、1メートル未満ごとに隅角部を設ける必要があるとき



屋根等に足場を設けるときの等、足場を設ける床面に著しい傾斜、凹凸等があり、建地を2本設置することが困難なとき



本足場を使用することにより建築物等と足場の作業床との間隔※が広くなり、墜落・転落災害のリスクが高まるとき



※足場の使用に当たっては建築物等と足場の作業床との間隔が30センチメートル以内とすることが望ましいです。

2 足場の点検時には点検者の指名が必要になります

安衛則第567条、第568条、第655条

R5.10.1施行

事業者及び注文者が足場の点検（つり足場含む。）を行う際は、あらかじめ点検者を指名することが必要になります。

●指名の方法

点検者の指名の方法は「書面で伝達」「朝礼等に際し口頭で伝達」「メール、電話等で伝達あらかじめ点検者の指名順を決めてその順番を伝達」等、点検者自らが点検者であるという認識を持ち、責任を持って点検ができる方法で行ってください。

●点検者について

事業者又は注文者が行う足場の組立て、一部解体又は一部変更の後の点検は、

- ・足場の組立て等作業主任者であって、足場の組立て等作業主任者能力向上教育を受講している者
- ・労働安全コンサルタント（試験の区分が土木又は建築である者）等労働安全衛生法第88条に基づく足場の設置等の届出に係る「計画作成参画者」に必要な資格を有する者
- ・全国仮設安全事業協同組合が行う「仮設安全監理者資格取得講習」を受けた者
- ・建設業労働災害防止協会が行う「施工管理者等のための足場点検実務研修」を受けた者

等十分な知識・経験を有する者を指名することが適切であり、「足場等の種類別点検チェックリスト」を活用することが望ましいです。



点検者職氏名（ ）

足場等の種類別点検チェックリスト（ ）（足場用）（注1）	
足場等点検チェックリスト	
工事名（ ）	工期（ ）～（ ）（注2）
点検者氏名（ ）	（注3）
点検日時	（注4）
点検場所（ ）	（注5）
点検者の用名、職名、職階	（注6）
点検者の資格	（注7）
点検者の経験	（注8）
点検者の教育	（注9）
点検者の研修	（注10）
点検者の講習	（注11）
点検者の講習	（注12）
点検者の講習	（注13）
点検者の講習	（注14）
点検者の講習	（注15）
点検者の講習	（注16）
点検者の講習	（注17）
点検者の講習	（注18）
点検者の講習	（注19）
点検者の講習	（注20）
点検者の講習	（注21）
点検者の講習	（注22）
点検者の講習	（注23）
点検者の講習	（注24）
点検者の講習	（注25）
点検者の講習	（注26）
点検者の講習	（注27）
点検者の講習	（注28）
点検者の講習	（注29）
点検者の講習	（注30）
点検者の講習	（注31）
点検者の講習	（注32）
点検者の講習	（注33）
点検者の講習	（注34）
点検者の講習	（注35）
点検者の講習	（注36）
点検者の講習	（注37）
点検者の講習	（注38）
点検者の講習	（注39）
点検者の講習	（注40）
点検者の講習	（注41）
点検者の講習	（注42）
点検者の講習	（注43）
点検者の講習	（注44）
点検者の講習	（注45）
点検者の講習	（注46）
点検者の講習	（注47）
点検者の講習	（注48）
点検者の講習	（注49）
点検者の講習	（注50）
点検者の講習	（注51）
点検者の講習	（注52）
点検者の講習	（注53）
点検者の講習	（注54）
点検者の講習	（注55）
点検者の講習	（注56）
点検者の講習	（注57）
点検者の講習	（注58）
点検者の講習	（注59）
点検者の講習	（注60）
点検者の講習	（注61）
点検者の講習	（注62）
点検者の講習	（注63）
点検者の講習	（注64）
点検者の講習	（注65）
点検者の講習	（注66）
点検者の講習	（注67）
点検者の講習	（注68）
点検者の講習	（注69）
点検者の講習	（注70）
点検者の講習	（注71）
点検者の講習	（注72）
点検者の講習	（注73）
点検者の講習	（注74）
点検者の講習	（注75）
点検者の講習	（注76）
点検者の講習	（注77）
点検者の講習	（注78）
点検者の講習	（注79）
点検者の講習	（注80）
点検者の講習	（注81）
点検者の講習	（注82）
点検者の講習	（注83）
点検者の講習	（注84）
点検者の講習	（注85）
点検者の講習	（注86）
点検者の講習	（注87）
点検者の講習	（注88）
点検者の講習	（注89）
点検者の講習	（注90）
点検者の講習	（注91）
点検者の講習	（注92）
点検者の講習	（注93）
点検者の講習	（注94）
点検者の講習	（注95）
点検者の講習	（注96）
点検者の講習	（注97）
点検者の講習	（注98）
点検者の講習	（注99）
点検者の講習	（注100）

3 足場の組立て等の後の点検者の氏名の記録・保存が必要になります

安衛則第567条、第655条

R5.10.1施行

足場の組立て、一部解体、変更等の後の点検後に、点検者の氏名を記録・保存することが必要になります。

事業者又は注文者が行う足場の組立て、一部解体又は一部変更の後の点検後に2で指名した点検者の氏名を記録及び保存しなければなりません。

お問い合わせ先

兵庫労働局 労働基準部 安全課 または最寄りの労働基準監督署まで

〒650-0044

兵庫県神戸市中央区東川崎町1丁目1番3号 神戸クリスタルタワー16階

TEL : 078-367-9152 / FAX : 078-367-9166

(R7.4)